

に来てと、こういうような判断になっているわけです。

- [ ] 私は個人的には、例えば先ほども少し議論がございましたが、[ ]さん、大変お忙しい方なので、日程などの都合が大丈夫かなという配慮を私どもがしなくてはいけないことそのものが、どこかちょっと悔しいというか、こちらが顕彰する立場にもかかわらず、やはり格がさらに上なのかなみたいな議論をせざるを得ないもどかしさというのをどこかで感じるんですね。

ですから、例えばもう [ ] を取られているとか、あるいはアカデミー賞も取られている。そういったことを、例えば他の顕彰がもう既になされているということで、まあ、もうそちらの方で功成り名を遂げておいでなんだから、この福岡アジア文化賞そのものは、もう少し違う筋でやろうじゃないかみたいな議論も起こるのかな。起こらないでもないと思わないでもないです。

- [ ] グラミー賞とか文化賞で賞の性質が違うと思いますので、それはマイナスにはならないだろうと思いますね。どうなのかな、もし来られなかった場合に、芸術・文化だと次点が [ ] さんですが、そうすると學術の [ ] 先生が1位、 [ ] さんが1位で、日本人が2人並んでしまっ、これ面倒くさいですね、まずいと思いますね。

それから、[ ] 先生、だめということはないでしょうね。その場合の次点が [ ] さんですけども、その場合に [ ] さんが1位ですから、中国、中国と並ぶ。これ堪忍してほしいですね、やめてほしい。

- [ ] さんの担当はどなたでしたかね、仮に決まったときの。
- [ ] 先生。
- [ ] 来れない心配はなさっていませんでしたね。健康に関して。
- [ ] 日程が大丈夫ならば大丈夫だと思うのですがね。心配なのが [ ] さんの場合だと、[ ] と重なりますよということ。どこかでこれ変えなきゃならなくなると思いますね。
- [ ] 私たちの方から、その [ ] さんのフランスとインドの方、それで芸術から中国、日本と、こうなるとバランスはいい。
- [ ] この組み合わせはいいですね。 [ ] さん除けば、この辺はとてもいいです。 [ ] さんはもったいなということだけであって。そうでなきゃ、これ本当にいつもの考え方ならば、とてもすばらしい。
- [ ] [ ] さんは53歳ですから前途洋々だし。